

国際学術情報流通基盤整備事業  
(SPARC Japan)  
年報

平成29(2017)年度

国立情報学研究所

## SPARC\*Japan ロゴについて

表紙のロゴは、SPARC North America とあわせて 2017 年 6 月に新たに決めました。アスタリスクに似たシンボルは、デジタル環境における SPARC の確固とした立場を表現し、そのエネルギーとダイナミズムを強調しています。旧ロゴの新しいアイデアの誕生や知識のオープンシェアリングを拡大するといった”spark”のイメージを引き継ぎつつ、シンプルになりました。

## 目次

巻頭言 .....	1
1 概要 .....	2
1.1 第5期（平成28～30年度）の活動概要 .....	2
1.1.1 第5期基本方針 .....	2
1.1.2 第5期事業計画 .....	2
1.2 平成29年度活動 .....	3
1.2.1 SPARC Japan セミナー .....	3
1.2.2 海外動向調査 .....	5
1.2.3 arXiv.org コンソーシアム事務局 .....	5
1.2.4 SCOAP <sup>3</sup> 支援 .....	6
1.2.5 CLOCKSS 支援 .....	6
1.2.6 論文公表実態調査 .....	6
1.2.7 平成28年度国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)年報の発行... 7	
1.2.8 高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応 .....	7
2 委員会等開催記録 .....	8
2.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会 .....	8
2.2 SPARC Japan セミナー企画 WG .....	8
3 委員名簿 .....	8
3.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会 .....	8
3.2 SPARC Japan セミナー企画 WG .....	9
4 総合年表 .....	10
5 刊行物一覧 .....	22
5.1 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)年報 .....	22
5.2 SPARC Japan ニュースレター .....	22
5.3 SPARC Japan セミナードキュメント .....	22
6 資料 ニュースレター再掲 .....	25



## 巻頭言

2003 年度から始まった本事業も、2017 年度で第 5 期の二年目を迎えました。一年間の活動をとりまとめて、ここに報告いたします。

第 5 期は、国際的なオープンアクセス(OA)イニシアティブとの協調、そして OA やオープンサイエンスの国内アドボカシーに注力しております。ご存知のように、今や研究活動は国際的な連携を抜きには語れません。更に近年では、学術雑誌の購読価格高騰に端を発した OA、そして科学研究の効率化や科学の発展のみならず、イノベーションの喚起や研究公正を背景としたオープンサイエンスの活動が、日本の研究活動にも深く関係してくるようになりました。このような情勢を踏まえて、学術情報の流通を如何に推進し、サステイナブルな仕組みを作るかが大きな課題となっております。

具体的には、2017 年度においては、arXiv.org や SCOAP<sup>3</sup> といった国際的な OA イニシアティブとの協調を進めました。arXiv.org については昨年度に引き続き、Member Advisory Board に日本コンソーシアム代表として京都大学の引原隆士図書館機構長にご出席いただき、機関リポジトリ等との連携について提案、積極的にご議論いただきました。SCOAP<sup>3</sup> は高エネルギー物理学分野の査読付き雑誌論文の OA 化を目的とした国際連携プロジェクトですが、2018 年からアメリカ物理学会 (APS) 刊行誌の一部が同プロジェクトの対象となることから、国内参加機関のとりまとめの役割を担うと共に、日本物理学会誌に啓発広告を掲載しております。更に、欧州原子核研究機構 (CERN) が提供しているデータベース「INSPIRE」に掲載された高エネルギー物理学分野の論文情報の品質向上のため、弊所の実務研修制度を利用し、大学図書館員 1 名を派遣、CERN においてキュレーションの経験を積んでいただきました。

アドボカシー活動としては、「オープンアクセス温故知新-ふりかえって次をみつかる-」を年間テーマとして、SPARC Japan セミナーを 3 回開催しました。第 1 回セミナーでは、図書館員と研究者が研究データをいかに管理・流通させていくかという視点を共有し、そこからもたらされる両者の新たな関係について、第 2 回セミナーでは、プレプリントサーバの機能や、その変遷を振り返りつつ、研究推進への寄与や持続性のあるビジネスモデルの構築、質の確保といった将来の課題を見据えて、これからのオープンアクセスを、第 3 回セミナーでは、社会全般にわたるデジタル化や学術コミュニケーションの形態の変化の中で、科学と学術の本来の姿を議論することで、学術コミュニティが向かうべき方向性を見出すことを目的に、各回、講演とパネルディスカッションを行いました。なお、第 3 回セミナーでは、SPARC North America のエグゼクティブディレクターを務める Heather Joseph 氏をお招きし講演いただいております。また、新たな試みとして、セミナーの動画中継を始めました。有難いことにご好評いただいております、今後も継続したいと考えております。

こうした諸活動は、大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) やオープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) はもとより、研究者コミュニティ等と協調しつつ、継続的に行っていくことが重要です。私自身は、この 3 月末を以て委員長を退任することになります。この場をお借りして、この事業を支えてくださった方々、特にセミナーを企画した企画 WG の委員の方々のご尽力に感謝の念を表したいと存じます。

2018 年 3 月 31 日  
国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会 委員長  
安達 淳

# 1 概要

## 1.1 第5期（平成28～30年度）の活動概要

### 1.1.1 第5期基本方針

第5期においても、第4期の活動を継承し、国内外のOAイニシアティブや関係組織と連携し、オープンアクセス等を推進し、学術情報流通の更なる発展に取り組むことを基本方針とする。

特に米国SPARCと連携し、日本のオープンアクセス活動を国際的に発信する。オープンアクセス等の推進にあたっては、まずその課題を把握することに努めると共に、「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下の機関リポジトリ推進委員会および大学図書館コンソーシアム連合等との協調を一層強化し、学術情報流通の発展に向けて参加意識を強める方向でアドボカシー活動を継続的に行っていく。

### 1.1.2 第5期事業計画

SPARC Japan 第5期の事業は次の4つを柱として計画することが、平成27年度第3回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会で決定した。

#### (1)国際的なOAイニシアティブとの協調

国際イニシアティブに参画し、日本の窓口としての役割を果たすとともに、その活動・成果のアピールに努める。これらも含めて、国際的な動向を注視し、必要な対応を行う。

#### (2)学術情報流通にかかわるアドボカシー活動

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」等の組織と連携しつつ、オープンアクセスやオープンサイエンス、学協会出版の国際流通に係るアドボカシー活動を継続して実施する。

#### (3)オープンサイエンスへの活動スコープの拡大

研究成果のオープンアクセス、イノベーションの基盤となる可能性を秘めたオープンデータ、加えて高等教育の基本的構成要素の再考を迫るオープンエデュケーションなどへの関心の高まりにあわせて、理工学分野だけではなく、人文科学・社会科学分野の動向等に関して適時の情報提供を実現する。また、大学図書館におけるオープンサイエンスの取り組み、研究データの管理等への関与について、戦略的な検討を行う。

#### (4)オープンアクセスに関する基礎的情報の把握

第4期に引き続き、オープンアクセスに関する基礎的情報を把握するために実態調査等を行う。各大学・研究機関の研究戦略を考える上で、データを集め分析するために、図書館が一定の役割を果たすことも検討する。

## 1.2 平成29年度活動

1.1.2の事業計画のもと、平成29年度は次のプロジェクトを実施した。

### 1.2.1 SPARC Japan セミナー

アドボカシー活動として、SPARC Japan セミナーを3回実施した。セミナー企画ワーキンググループ（以下、「WG」という。）を立ち上げ、WGメンバー全員で年度を通した全体テーマ、セミナー各回のテーマの割り振りを検討し、各回に担当者を置いて企画・実施した。セミナー終了後、SPARC Japan ニュースレター（以下、「NL」という。）を発行・ウェブ配信した。

### SPARC Japan セミナーの記録

年間テーマ 「オープンアクセス温故知新-ふりかえって次を見つける-

第1回	<p>平成29年9月13日（水）13:00～17:20 （NII 19階会議室）</p> <p>「図書館員と研究者の新たな関係：研究データの管理と流通から考える」  <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20170913.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20170913.html</a></p> <p>〔司会〕能勢 正仁（京都大学大学院理学研究科）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開会挨拶/趣旨説明」 能勢 正仁（京都大学大学院理学研究科）</li> <li>・「研究者にとってのデータの意味と大学におけるデータ管理への期待」 倉田 敬子（慶應義塾大学文学部）</li> <li>・「学術リポジトリは研究者と図書館員を繋げるのか？」 大澤 剛士（農業・食品産業技術総合研究機構農業環境変動研究センター）</li> <li>・「研究データ管理の組織的支援と図書館の役割について」 西菌 由依（鹿児島大学/JPCOAR 研究データタスクフォース）</li> <li>・「新たな学術情報流通において JPCOAR スキーマが果たす役割」 片岡 朋子（お茶の水女子大学/JPCOAR メタデータ普及タスクフォース）</li> <li>・「研究データ利活用協議会(RDUF)紹介」 武田 英明（国立情報学研究所/研究データ利活用協議会）</li> <li>・「全体議論」</li> </ul> <p>〔モデレーター〕能勢 正仁（京都大学大学院理学研究科）</p> <p><u>企画 WG（五十音順、◎は主査）</u>          中谷 昇（鳥取大学学術情報部）          能勢 正仁（京都大学大学院理学研究科）◎          林 賢紀（国際農林水産業研究センター）</p> <p>参加人数：60名（定員：60名）</p> <p>動画中継利用件数※：286、アーカイブ動画利用件数※：312</p> <p>NL第33号（2017年12月）（参照：7 資料 ニュースレター再掲）</p>
第2回	<p>平成29年10月30日（月）11:00～16:40 （NII 12階会議室）</p> <p>「プレプリントとオープンアクセス」  <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20171030.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20171030.html</a></p> <p>〔司会〕坊農 秀雅（情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「開会挨拶/趣旨説明」 坊農 秀雅（情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター）</li> <li>・「arXiv.orgの次世代システムの公開と戦略」 引原 隆士（京都大学図書館機構長/arXiv.org 会員コンソーシアム代表）</li> <li>・「学術情報共有とオープンアクセスの未来」 Gregg Gordon（Managing Director, SSRN）</li> <li>・「化学分野におけるプレプリントの位置付け・課題等について」</li> </ul>

	<p>生長 幸之助 (東京大学大学院薬学系研究科/化学ポータルサイト Chem-Station 副代表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命科学分野におけるプレプリントの位置付けや経験について、統合 TV について」</li> </ul> <p>小野 浩雅 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全体議論」</li> </ul> <p>[モデレーター] 坊農 秀雅 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター)</p> <p><u>企画 WG (五十音順、◎は主査)</u></p> <p>梶原 茂寿 (室蘭工業大学附属図書館)</p> <p>笹渕 洋子 (早稲田大学図書館)</p> <p>坊農 秀雅 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター) ◎</p>
第 3 回	<p>平成 30 年 2 月 21 日 (水) 10:30～17:00 (NII 12 階会議室)</p> <p>「オープンサイエンスを超えて」  <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20180221.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20180221.html</a></p> <p>[司会] 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「趣旨説明」</li> </ul> <p>蔵川 圭 (国立情報学研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オープンサイエンスを真に理解する：その有益性の潜在能力、脆弱性、機能的パフォーマンスの問題、これらの解決策を講じない方法」</li> </ul> <p>Paul A. David (Stanford University)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「データ駆動型の科学研究エコシステムとしてのオープンサイエンスー過去のコミュニティ実践事例と日本の視点」</li> </ul> <p>村山 泰啓 (情報通信研究機構/ICSU-World Data System)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「オープンリサーチを可能にするには」</li> </ul> <p>Heather Joseph (SPARC North America)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デジタル時代の研究プロセスと大学、大学図書館における支援のあり方」</li> </ul> <p>倉田 敬子 (慶應義塾大学文学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デジタル化時代の研究者のために図書館が構築すべき学術情報環境」</li> </ul> <p>市古 みどり (慶應義塾大学三田メディアセンター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「パネルディスカッション」</li> </ul> <p>「討論への問題提起：オープンサイエンスの知識論を考える」</p> <p>[モデレーター] 深貝 保則 (横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院)</p> <p><u>企画 WG (五十音順、◎は主査)</u></p> <p>梶原 茂寿 (室蘭工業大学附属図書館)</p> <p>蔵川 圭 (国立情報学研究所) ◎</p> <p>林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)</p>
年間	<p>参加人数：190 名 (定員計 200 名、平均 63 名)</p> <p>動画中継利用件数※：681、アーカイブ動画利用件数※：800</p>

※2018 年 3 月 11 日時点



### 1.2.2 海外動向調査

下記の国際会議等に参加し、情報収集を行った。

- ・ RDA (Research Data Alliance) 9th Plenary Meeting  
(4月5-7日 Barcelona, Spain) に NII 武田教授, 山地准教授, 船守准教授, 金澤准教授, 蔵川特任准教授を派遣した。
- ・ COAR (Confederation of Open Access Repository) Annual meeting 2017  
(5月8-10日 Venice, Italy) に NII 山地准教授を派遣した。
- ・ IDF Strategic Meeting International DOI Foundation  
(6月13-14日 Daejeon, Korea) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ DOI Strategy Meeting  
(6月15日 Seoul, Korea) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ OR2017 (The 12th Annual International Conference on Open Repositories)  
(6月27-30日 Brisbane, Australia) にオープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会委員の大学図書館員1名を派遣した。
- ・ RDA (Research Data Alliance) 10th Plenary Meeting  
(9月18-21日 Montreal, Canada) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ PIDapalooza (PID : Persistent ID)  
(1月23-24日 Girona, Spain) に NII 武田教授を派遣した。
- ・ IDF Annual Meeting  
(1月25-26日 Barcelona, Spain) に NII 武田教授を派遣した。

### 1.2.3 arXiv.org コンソーシアム事務局

arXiv.org は物理学、数学、コンピュータサイエンス及び関連分野のプレプリントサーバで、コーネル大学図書館が運用している。2017年には電気工学システム科学、経済学が新たに加わった。2014年12月に100万論文を突破し、2017年には約137万件、新規登録数は年間12万件、ダウンロード数は年間約1.8億件以上で、総ダウンロード数は10億件を超えた。利用件数上位の機関による財政支援があり、2013年に開始した「arXiv 会員制プログラム」により2017年末現在で27カ国221機関が参加している。

日本においてはNIIが各大学の意思確認を取りまとめて支援してきた。2014年4月にコーネル大学から、日本の会員館でコンソーシアムとして参加することについて打診があり、会員に確認の後、コンソーシアム契約に切り替えを行った。会費はコンソーシアム価格のため10%減となった。2017年は利用件数上位300位までの大学に会員申請の意向調査を行った結果、2017年12月末現在の会員数は14機関である。

さらに2015年度には、本コンソーシアム名を日本研究図書館コンソーシアム(英文名: Consortium of Japanese Research Libraries: Coordinated by National Institute of Informatics (NII)、英文略称: NII Japan Consortia)とした。また、引原隆士 京都大学図書館機構長が本コンソーシアムの代表に就任し、2016年からarXiv.orgのMember Advisory Board (MAB)に参加し、2016年に続き、2017年は10月5日開催の会議に出

席した。

#### 1.2.4 SCOAP<sup>3</sup> 支援

2014年から開始したSCOAP<sup>3</sup>について2017年も参加意向および連絡先を確認し、日本の大学図書館からの拠出金を、日本のナショナル・コンタクト・ポイントであるNIIがとりまとめて支払った。なお、フェーズ1（2014年～2016年）における日本の参加機関は34機関で、フェーズ2（2017年～2019年）は2017年に40機関、さらに2018年からアメリカ物理学会が対象誌として加わったことをうけ、2018年3月末現在で67機関が参加を表明している。

SCOAP<sup>3</sup>によりOA化された論文は17,850件に達している（2014年～2017年）。論文あたりのコストを算出すると、1,032Euroであり、一般的なGold OA誌のAPCに比べて低く抑えられている。

SCOAP<sup>3</sup>のOA論文を収載したSCOAP<sup>3</sup>リポジトリとそのAPIが既に公開されているが、リポジトリはDOI付与、CC BYライセンス表示、XML形式で公開されており、テキストマイニング、データマイニングが可能である。

2018年からはアメリカ物理学会（American Physical Society : APS）がSCOAP<sup>3</sup>に加わり、APSの刊行するPhysical Review C、Physical Review D、Physical Review Lettersの3誌に掲載されているHEP分野の論文がオープンアクセスになることが発表された。これにより、2018年以降は世界中のHEP分野の論文の約90%がオープンアクセスとなった。2018年、2019年の各購読機関のAPS契約金額からはSCOAP<sup>3</sup>拠出額が削減される。

SCOAP<sup>3</sup>評議会日本代表委員であるNII安達教授がExecutive Meeting（9月26日、テレビ会議）及びForum（2017年12月7日、Webinar）に出席した。また、さらに多くの機関に参加を求めため、本年度は物理学研究者向けに動画を作成・公開するとともに、日本物理学会誌に広告を掲載するといった広報活動を行った。

#### 1.2.5 CLOCKSS 支援

CLOCKSS（Controlled Lots of Copies Keep Stuff Safe）は、全世界の研究者のためにデジタル資源（Webベースの学術文献等）の長期保存を実現することを目的とし、アーカイブとそれを運営するコミュニティを構築して、コンテンツが出版社から提供されなくなった場合にアーカイブ上のコンテンツを広く利用できるようにするなどの取り組みを行っている。

日本においては2013年からNIIが各大学の参加意向確認および年会費支払いのとりまとめを行っている。なお、日本からは2017年4月末現在で98機関が参加している。

#### 1.2.6 論文公表実態調査

2015年度に、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と連携し、JUSTICEの下に論文公表実態調査チームを設け、我が国における論文公表とAPC（Article Processing

Charge) の実態調査を開始した。平成 29 年度も引き続きフォローアップを行った。

#### **1.2.7 平成 28 年度国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 年報の発行**

平成 28 年度の活動状況をまとめ、平成 30 年 3 月に発行した。また、平成 27 年度 SPARC Japan 年報について、平成 30 年 3 月に英語版を発行した。

#### **1.2.8 高エネルギー物理学分野の情報サービスに係る国際連携協定への対応**

高エネルギー物理学分野に関する国際連携協定を欧州原子核研究機構 (CERN)、高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 及び国立情報学研究所 (NII) の 3 機関が締結した。

CERN が提供する高エネルギー物理学分野の文献情報サービスである INSPIRE データベースを中心にデータキュレーションの実務に関する共同事業を行うために、平成 29 年 10 月から約 3 か月間、大学図書館員 1 名を CERN に派遣するとともに、双方の関係者によるテレビ会議を複数回行った。

## 2 委員会等開催記録

### 2.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

開催日	議題
第1回 平成29年9月26日	1. 前回議事要旨(案)について 2. 平成29年度 SPARC Japan 活動状況について【報告】 3. 国際連携の状況について【報告・審議】 4. SPARC Japan の今後の活動方針について【審議】 5. JUSTICE における Open Access に係る活動状況報告【報告】 6. その他
第2回 平成30年3月14日	1. 前回議事要旨(案)について 2. 平成29年度 SPARC Japan 事業報告【報告】 3. JUSTICE における Open Access に係る活動状況報告【報告】 4. 国際連携の状況について【報告】 5. 平成30年度 SPARC Japan 活動計画について【審議】 6. 平成30年度 SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループの設置について【審議】 7. SPARC Japan の今後の活動方針について【審議】 8. その他

### 2.2 SPARC Japan セミナー企画WG

開催日	議題
キックオフミーティング 平成29年6月21日	1. 趣旨説明 2. 年間テーマ確定 3. スケジュール・分担検討 4. その他

## 3 委員名簿

### 3.1 国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会

氏名	所属・役職	備考
逸村 裕	筑波大学 図書館情報メディア系 教授	1号委員 (研究教育職員)
今井 浩	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授	1号委員 (研究教育職員)
深貝 保則	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授	1号委員 (研究教育職員)
倉田 敬子	慶應義塾大学 文学部 教授	1号委員 (研究教育職員)
野崎 光昭	高エネルギー加速器研究機構 教授 国際連携推進室 室長	1号委員 (研究教育職員)
土屋 俊	独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 教授	1号委員 (研究教育職員)

島 文子	北海道大学附属図書館 事務部長 (国大図協 OA 会長館)	2号委員 (大学図書館関係者)
高橋 努	東京大学附属図書館 事務部長	2号委員 (大学図書館関係者)
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務部長	2号委員 (大学図書館関係者)
市古 みどり	慶應義塾大学三田メディアセンター 事務長 (大学図書館コンソーシアム連合運営委員会委員長)	2号委員 (大学図書館関係者)
林 和弘	科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官	3号委員 (学会の関係者)
安達 淳	国立情報学研究所 副所長	1号委員 (研究教育職員) 委員長
武田 英明	国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授 (JaLC 運営委員会委員長)	1号委員 (研究教育職員)
江川 和子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長	2号委員 (大学図書館関係者)

### 3.2 SPARC Japan セミナー企画 WG

氏名	所属・役職
梶原 茂寿	室蘭工業大学 総務広報課 図書学術情報室長 (国立情報学研究所推薦)
能勢 正仁	京都大学大学院理学研究科附属地磁気世界資料解析センター 助教
中谷 昇	鳥取大学 学術情報部図書館情報課 (オープンアクセスリポジトリ推進協会推薦)
笹渕 洋子	早稲田大学図書館 調査役 (電子資料担当) (大学図書館コンソーシアム連合運営委員会推薦)
林 和弘	科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官
林 賢紀	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 企画連携部情報広報室情報管理科情報管理係 (これからの学術情報システム構築検討委員会推薦)
坊農 秀雅	情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 ライフサイエンス統合データベースセンター (DBCLS) 特任准教授
蔵川 圭	国立情報学研究所 学術コンテンツ課 特任准教授

## 4 総合年表

年度	評議会 運営委員会	主催イベント	その他のイベント
平成 15 (2003)	<p>06/25 第 1 回評議会</p> <p>07/14 事業参画提案の募集開始</p> <p>08/01 第 1 回運営委員会</p> <p>09/11 第 2 回運営委員会</p> <p>09/17 第 2 回評議会 (事業参画提案決定)</p> <p>09/17 記者発表</p> <p>10/08 作業グループ合同会議</p>	<p>07/02 学協会向け事業説明会 (於：日本教育会館)</p> <p>08/19 事業説明会 (於：東北大学 東北大学附属図書館との共催)</p> <p>01/21-29 Project Euclid 説明会 (於：学術総合センター、東北大学、京都大学、名古屋大学)</p> <p>02/23 SPARC/JAPAN 懇談会：参加学会への成果報告、新雑誌創刊構想説明 (於：学術総合センター)</p> <p>03/11 SPARC/JAPAN セミナー：生物系学協会誌をめぐる学術情報流通体制の将来 -UniBio Press のめざすもの- (於：東京大学附属図書館)</p> <p>07/07 学協会向け事業説明会 (於：学術総合センター)</p>	<p>11/05 第 5 回図書館総合展フォーラム「SPARC/JAPAN：日本の国際学術コミュニケーションの変革」開催 (於：東京国際フォーラム 国立大学図書館協議会・私立大学図書館協会主催)</p> <p>11/20 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース (生物系、物理系、医学系の購読交渉)</p>
平成 16 (2004)	<p>03/22 第 3 回運営委員会</p> <p>03/23 第 3 回評議会</p> <p>05/28 第 1 回運営委員会</p> <p>06/02 第 1 回評議会</p> <p>06/07 参画提案募集開始</p> <p>09/15 第 2 回運営委員会</p> <p>09/22 第 2 回評議会 (事業参画提案選定)</p>		<p>07/01 国立大学図書館協会総会ワークショップ：「国際学術情報流通基盤整備事業の活動」(於：大阪大学コンベンションセンター)</p>

平成 17 (2005)	10/14 作業グループ合同会議	<p>09/27 Project Euclid 懇談会 (Project Euclid への参画に関する技術的打ち合わせ、DPubS についての説明)</p> <p>10/15 シンポジウム：学会出版と学術コミュニケーション活動の変革～SPARC/JAPAN を事例として～ (於：広島大学中央図書館 広島大学図書館、国立情報学研究所、国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会共催)</p> <p>10/19 緊急シンポジウム「どうする日本の学術誌！」(於：早稲田大学総合学術情報センター (社) 高分子学会、(社) 電子情報通信学会、東北学術雑誌編集委員会、(社) 日本機械学会、(社) 日本金属学会、(社) 日本動物学会、(社) 日本分析化学会、日本哺乳動物卵子学会、日本哺乳類学会、国立情報学研究所共催)</p> <p>11/05 OUP 懇談会「Open Access の現状について」</p> <p>11/25 第 6 回図書館総合展フォーラム「学術コミュニケーションの最先端：オープン・アクセスとセルフアーカイブ」(於：パシフィコ横浜)</p> <p>01/27 ワークショップ「電子ジャーナルのビジネスモデル構築と学術出版をめぐる動向」(於：日本教育会館)</p> <p>03/24 シンポジウム「SPARC の現状と課題：学術雑誌・機関レポジトリ・オープン・アクセス」(於：早稲田大学)</p> <p>05/19 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 1 回「Nature の歴史、今、未来を語る－Nature の編集方針」</p> <p>06/29 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 2 回「電子投稿査読システムとは何か－今、日本で使えるシステム」JST「J-STAGE 投稿審査システム」</p> <p>07/09-10 電子ジャーナル利用の現在と未来に関するクローズド・ワークショップ (於：経団連ゲストハウス、静岡)</p> <p>07/15 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 3 回「オープン・アクセスの理念と実践－研究者・図書館・学術誌」</p>
	06/06 第 1 回運営委員会 06/08 第 1 回評議会	<p>10/19-20 Project Euclid DPubS Conference に参加 (於：コーネル大学)</p> <p>06/21-22 JISC International Solutions for the Dissemination of Research に出席、討議 (ロンドン)</p> <p>07/07-08 エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2005「ユーザーを理解する (Understanding Users)」(於：京都・東京、エルゼビア・ジャパン主催、NII 後援)</p>

平成 18 (2006)	<p>10/13 第 2 回運営委員会</p> <p>10/26 第 2 回評議会 (事業参画提案選定)</p>	<p>07/20 UniBio Press の挑戦 - 学会の新しいビジネスモデル (於: 茨城大学 茨城大学図書館主催)</p> <p>09/22 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 4 回「電子ジャーナルをどう作成し、どう公開するか」学協会、企業の試み」</p> <p>10/06 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 5 回「主体である研究者は何をすべきか」電子ジャーナル時代を迎えて」(於: つくば国際会議場社団法人日本動物学会第 76 回大会関連シンポジウムとの共催)</p> <p>11/24 SPARC/JAPAN 連続セミナー臨時回「Journal of Bioscience and Bioengineering WEB 投稿審査システム」説明会・デモンストレーション</p> <p>11/30 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 6 回「第 7 回図書館総合展フォーラム COUNTER プロジェクト: オンライン利用統計の国際標準について」(於: パシフィック横浜)</p> <p>12/01 COUNTER プロジェクトに関するクロゼド・ワークショップ</p> <p>12/12 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 7 回「日本の学術誌における英文校閲を考える」</p> <p>01/31 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 8 回「学術情報流通をめぐる最近の動向と技術標準: Google Scholar、CrossRef、OAI-PMH、etc.」</p> <p>02/10 SPARC/JAPAN 連続セミナー第 9 回「SPARC/JAPAN 選定誌によるラップアップセッション」</p>	<p>09/15 山口大学図書館セミナー2005 「日本の電子ジャーナルの現況」学術コミュニケーションの今日: SPARC/JAPAN の挑戦 (於: 山口大学 山口大学学術情報機構図書館主催)</p> <p>09/16 京都大学学術情報・電子ジャーナルシンポジウム「大学における学術情報資源の整備—電子ジャーナル時代の学術コミュニケーションの変革—」(於: 京都大学 京都大学附属図書館とNII の共催)</p> <p>12/09 長崎大学附属図書館連続講演会第二回講演会「学術情報発信の新しい動向」: SPARC/JAPAN の活動と課題 (於: 長崎大学 長崎大学附属図書館主催)</p>
	<p>02/15 第 3 回運営委員会</p> <p>02/24 第 3 回評議会</p>	<p>06/30 SPARC Japan 連続セミナー2006 第 1 回「海外商業出版社から見た日本の学術コミュニケーション」</p> <p>07/26 SPARC Japan 連続セミナー2006 第 2 回「e-Journal の販促とライセンシング: 海外の状況と海外市場における日本ジャーナルの展望」</p>	<p>03 米国研究図書館協会 (ARL) と MOU を締結</p> <p>07/03-04 エルゼビア・ライブラリ・コネクト・セミナー2006 「From “Search” to “Find” ~ 必要な情報を見つけやすい環境づくり ~」(於: 東京・大阪、エルゼビア・ジャパン主催、NII 後援)</p>



	<p>09/08 第1回運営委員会</p>	<p>09/05 Sally Morris 氏講演会「Introducing ALPSP」</p> <p>09/29 SPARC Japan 連続セミナー2006 第3回「Web投稿審査システムの検証：ビフォーアフター」</p> <p>11/02 SPARC Japan 連続セミナー2006 第4回「大学図書館から学術出版社への要望：COUNTERを例にして」</p> <p>11/20 第8回国書館総合展フォーラム「TRANSFER—出版社間のジャーナル移行に伴う問題点とその解決に向けて」（於：パシフィック横浜）</p> <p>12/14 SPARC Japan 連続セミナー2006 第5回「著作権：学会の権利、著者の権利、機関リポジトリへの対応」</p> <p>12/18-19 「デジタル巨人の肩の上に立つ」機関リポジトリ、e-サイエンス、および学術コミュニケーションの将来に関する国際シンポジウム（於：都市センターホール）</p> <p>01/30 SPARC Japan 連続セミナー2006 第6回「e-Journalの販売とライセンスング(2)-販売のプロに学ぶ成功の秘訣」</p> <p>03/05 SPARC Japan 連続セミナー2006 第7回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る」</p>	
<p>平成19 (2007)</p>	<p>06/12 パートナー誌合同会議</p> <p>07/19 第1回運営委員会</p>	<p>07/17 SPARC Japan 連続セミナー2007 第1回「計量書誌学からジャーナル・論文のパフォーマンスを測る-2-」</p> <p>10/02 SPARC Japan 連続セミナー2007 第2回「Web投稿審査システムの検証パート3 稿より良いシステムを目指して」</p>	<p>05/15 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナルの挑戦—より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：学術総合センター UniBio Press 主催）</p> <p>05/17 UniBio Press セミナー「生物系ジャーナルの挑戦—より明確に、より広く、その情報を伝えるために」（於：京都大学附属図書館 UniBio Press 主催）</p> <p>08/05-11 41th IUPAC (International Union of Pure and Applied Chemistry) 化学会議出展（於：トリノ）</p> <p>08/20-22 234th ACS 秋季大会出展（於：ボストン）</p>

		<p>11/02 SPARC Japan 連続セミナー2007 第3回 「メタデータ Publishing の現在—電子ジャーナル主体の製作・出版に必要なもの」</p> <p>11/09 第9回国書館総合展プレゼンテーション「日本の英文トップ電子ジャーナルの挑戦—図書館総合展プレゼンテーションパートナ雑誌からの提案—」(於：パシフィック横浜)</p> <p>01/17 SPARC Japan-ALPSP 特別セミナー (第4回 SPARC Japan 連続セミナー2007) 「学術出版と学会 Journal Publishing and Scholarly Societies」</p> <p>01/18 ALPSP トレーニングコース 「Introduction to Journal Publishing」</p>	<p>11/07-09 第9回国書館総合展 (於：パシフィック横浜)</p>
<p>平成 20 (2008)</p>	<p>02/29 第2回運営委員会</p>	<p>04/22 SPARC Japan セミナー2008 第1回 「研究成果発表の手段としての学術誌の将来」</p> <p>06/24 SPARC Japan セミナー2008 第2回 「学術出版とXML 対応-日本の課題」</p> <p>07/10 SPARC Japan セミナー2008 第3回 「韓国コンソーシアム事情 - 海外展開を目指して -」</p> <p>09/02-03 RIMS 研究集会 (第4回 SPARC Japan セミナー2008) 「紀要の電子化と周辺の話題」(於：京都大学数理解析研究所 京都大学数理解析研究所主催)</p> <p>10/14 SPARC Japan セミナー2008 (Open Access Day 特別セミナー) 「日本における最適なオープン・アクセスとは何か?」</p>	<p>06/15-17 SLA (Special Libraries Association 米国専門図書館協会) 年次総会 (於：シアトル)</p> <p>06/26 第55回国立大学図書館協会総会 (於：東北大学)</p> <p>07/13-15 中国化学会学術年会 (於：天津)</p> <p>08/17-19 236th ACS National Meeting &amp; Exposition 出展 (於：フィラデルフィア)</p> <p>09/11-12 私立大学図書館協会総会 (於：國學院大学)</p> <p>09/16-20 2nd EuCheMS Chemistry Congress 出展 (於：トリノ)</p> <p>09/25-26 KESLI (Korean Electronic Site License Initiative) 電子情報 EXPO での発表、出展 (於：大田)</p> <p>10/12-15 15th North American ISSX (International Society for the Study of Xenobiotics) Meeting での広報 (於：サンディエゴ)</p> <p>10/27-30 ISAP2008 (International Symposium on Antennas and Propagation) 出展 (於：台湾)</p>

平成 21 (2009)		<p>11/17-18 SPARC Digital Repositories Meeting 2008 (於：ポルチモア SPARC、SPARC Europe、SPARC Japan 共同主催)</p> <p>11/25 SPARC Japan セミナー2008 第6回 「IF を越えて・さらなる研究評価の在り方を考える」</p> <p>11/27 SPARC Japan セミナー2008 第7回 (第10回図書館総合展・学術情報オープンサミット2008 フォーラム) 「Open Access Update」</p> <p>12/16 SPARC Japan セミナー2008 第8回 「日本で使える電子ジャーナルプラットフォーム」</p> <p>01/22-26 Project Euclid と数学系ジャーナルの打ち合せ (於：国立情報学研究所、京都大学、東京工業大学)</p> <p>02/13 SPARC Japan セミナー2008 第9回 「SPARC Japan 選定誌がやってきたこと」</p>	<p>11/13-14 INFOPRO2008 ブロダクトレビュー参加・出展 (於：日本科学未来館)</p> <p>12/17-20 EUC2008 (International Conference On Embedded and Ubiquitous Computing) 出展 (於：上海)</p> <p>03/16-20 APS March Meeting 2009 (米国物理学会年会) 出展 (於：ピッツバーグ)</p>
10/05 第1回運営委員会	03/27 パートナー誌合同会議 03/27 第3回運営委員会	<p>06/25 SPARC Japan セミナー2009 第1回 「研究者は発信するー多様な情報手段を用い、社会への拡がり求めて」</p> <p>08/04 SPARC Japan セミナー2009 第2回 「非営利出版のサステイナビリティとはーOUPに学ぶ」</p> <p>09/08-09 RIMS 研究集会 (第3回 SPARC Japan セミナー2009) 「数学におけるデジタルライブラリー構築へ向けてー研究分野間の協調のもとに」</p> <p>09/17 日本動物学会大会 (第4回 SPARC Japan セミナー2009) 「ZS プロジェクトについて」</p> <p>10/20 Open Access Week (第5回 SPARC Japan セミナー2009) 「オープンアクセスのビジネスモデルと研究者の実際」</p> <p>11/11 第6回 SPARC Japan セミナー2009 (第11回図書館総合展学術情報オープンサミット2009 フォーラム) 「NIH Public Access Policy とは何か」</p>	<p>11/25 第9回アジア太平洋生物化学工学会議 (APBioChEC 2009) に SPARC Japan の化学系パートナー誌が出展 (於：神戸国際会議場)</p>

		<p>03/23 第2回運営委員会</p> <p>12/11 第7回 SPARC Japan セミナー2009 「人文系学術誌の現状—機関リポジトリ、著作権、電子ジャーナル」</p> <p>02/02 第8回 SPARC Japan セミナー2009 「Marketing to Libraries Worldwide」</p> <p>02/03 ALPSP トレーニングコース 「Effective Journals Marketing」</p>	<p>12/03-04 DRFIC 2009 デジタルリポジトリ連合国際会議 2009 (於：東京工業大学 DRF (デジタルリポジトリ連合) と NII の共催)</p>
<p>平成 22 (2010)</p>		<p>06/23 第1回 SPARC Japan セミナー2010 「学会の仕事とその経営を知る」</p> <p>07/06 第2回 SPARC Japan セミナー2010 「ジャーナル出版—海外学会の現状」</p> <p>08/24 第3回 SPARC Japan セミナー2010 「図書館の仕事を知る—学術雑誌の購読と利用—」</p> <p>09/16 第4回 SPARC Japan セミナー2010 (RIMS 研究集会) 「数学におけるデジタルライブラリー構築へ向けて」</p> <p>09/24 第5回 SPARC Japan セミナー2010 (社団法人 日本動物学会 第81回大会) 「日本の学術情報流通 10年後を見据えて」</p> <p>10/20 第6回 SPARC Japan セミナー2010 Open Access Week 「日本発オープンアクセス」</p> <p>11/08- 09 SPARC Digital Repositories Meeting (デジタルリポジトリ会議) (於：ボルチモア SPARC、SPARC Europe、SPARC</p>	<p>08/19 International Congress of Mathematicians (国際数学者会議) に出展 (於：ハイデラバード)</p> <p>08/22- 26 American Chemical Society (ACS) 2010 年 秋季大会に出展 (於：マサチューセッツ)</p> <p>08/29-09/02 3rd EuCheMS Chemistry Congress (第3回ヨーロッパ化学会議) に出展 (於：ニュルンベルク)</p>

		<p>Japan 共催)</p> <p>12/10 シンポジウム 「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」(於：東京大学 国立大学図書館協会と NII の共催)</p> <p>01/14 第 7 回 SPARC Japan セミナー2010 「著者 ID の動向」</p> <p>02/03 第 8 回 SPARC Japan セミナー2010 「世界における日本の論文/日本の学術誌」のインパクト」</p> <p>03/08 TIB (ドイツ技術情報図書館) / ZB MED (ドイツ医学中央図書館) / NII (国立情報学研究所) MoU 締結記念 講演会 「ドイツと日本における学術情報流通基盤の未来」(於：学術総合センター 東京ドイツ文化センターとの共催)</p> <p>03/16 第 1 回運営委員会</p>	
平成 23 (2011)	<p>10/06 第 1 回運営委員会</p>	<p>10/28 第 1 回 SPARC Japan セミナー2011 Open Access Week 「OA 出版の現況と戦略 (ジャーナル出版の側から)」</p> <p>12/06 第 2 回 SPARC Japan セミナー2011 「今時の文献管理ツール」ワークショップ</p> <p>01/31 第 3 回 SPARC Japan セミナー2011 「学術情報流通の新たな展開 - 研究者・学会とオープンアクセス -」</p> <p>02/10 第 4 回 SPARC Japan セミナー2011 「学術情報流通の未来を切り開く - 電子ジャーナルの危機とオープンアクセス -」</p> <p>02/29 第 5 回 SPARC Japan セミナー2011 「OA メガジャーナルの興隆」</p> <p>03/26 第 6 回 SPARC Japan セミナー2011 「数学出版に関するワ</p>	<p>08/28-09/01 American Chemical Society (ACS) Fall 2011 National Meeting &amp; Exposition (第 242 回米国化学会秋季大会) に出展(於：デンバー)</p> <p>09/04-09 14th Asian Chemical Congress 2011 (14 ACC) (第 14 回アジア化学会議) に出展(於：バンコク)</p> <p>10/26 2011 Open Access Korea(OAK) Conference での発表(於：ソウル)</p>

	03/27 第2回運営委員会	<p>ークシヨップ」(於：東京理科大学 Project Euclid 主催、日本数学会共催ワークショップ)</p> <p>05/25 第1回 SPARC Japan セミナー2012 「学術評価を考える」</p> <p>06/19 第2回 SPARC Japan セミナー2012 「ジャーナルの発展をもとめて〜アラットフォーム移築を中心に〜」</p> <p>07/25 第3回 SPARC Japan セミナー2012 「平成25年度 科学研究費補助金(研究成果公開促進費)改革」</p> <p>08/23 第4回 SPARC Japan セミナー2012 「研究助成機関が刊行するオープンアクセス誌」</p> <p>10/26 第5回 SPARC Japan セミナー2012 「Open Access Week - 日本におけるオープンアクセス、この10年からの10年」</p> <p>12/04 第6回 SPARC Japan セミナー2012 「オープンアクセスによって図書館業務はどうか〜図書館のためのオープンアクセス講座〜」</p> <p>02/19 第7回 SPARC Japan セミナー2012 「図書館によるオープンアクセス財政支援」</p>	<p>07/02-07 European Congress of Mathematics (ECM) に出展 (於：クラクフ、ポーランド)</p> <p>08/19-21 American Chemical Society (ACS) Fall 2012 National Meeting &amp; Exposition (第244回米国化学会秋季大会) に出展 (於：フィラデルフィア)</p> <p>08/26-30 4th EuCheMS Chemistry Congress (第4回ヨーロッパ化学会議) に出展 (於：ブラハ)</p> <p>12/26-27 RIMS 共同研究 研究会にて基調講演 (於：京都大学)</p>
平成24 (2012)		<p>06/07 第1回 SPARC Japan セミナー2013 「SPARC と SPARC Japan のこれから」</p> <p>08/23 第2回 SPARC Japan セミナー2013 「人社系オープンアクセスの現在」</p> <p>10/25 第3回 SPARC Japan セミナー2013 「オープンアクセス時代の研究成果のインパクトを再定義する：再利用と Altmetrics の現在」</p> <p>12/19 第4回 SPARC Japan セミナー2013 「今日の問題を解く、学術情報の受信と発信 - Think Globally, Act Locally」</p> <p>02/07 第5回 SPARC Japan セミナー2013 「アジアを吹き抜けるオープンアクセスの風 - 過去、現在、未来」</p>	<p>08/06 第1回 OA ジャーナルへの投稿に関する調査ワーキンググループ開催</p> <p>10/02 第2回 OA ジャーナルへの投稿に関する調査ワーキンググループ開催</p> <p>12/04 SCOAP<sup>3</sup>とMOUを締結</p> <p>01/27 RIMS 共同研究 研究会にて基調講演 (於：京都大学)</p> <p>03/02 COAPI Meeting へ参加 (於：カンザスシティ)</p>
平成25 (2013)			

	03/24 第1回運営委員会		03/03-04 SPARC2014 Open Access Meeting 本会議への参加 (於：カンザスシティ) 03/13 第3回 OA ジャーナナルへの投稿に関する調査ワーキング グループ開催
平成26 (2014)		08/04 第1回 SPARC Japan セミナー2014 「大学/研究機関はどの ようにオープンアクセス費用と向き合うべきか—APCをめぐる 国内外の動向から考える」 09/26 第2回 SPARC Japan セミナー2014 「大学における OA ポ リシー：日本版 OA ポリシーのモデル構築に向けて」 10/21 第3回 SPARC Japan セミナー2014 「「オープン世代」の Science」 03/09 第4回 SPARC Japan セミナー2014 「グリーンコンテンツ の拡大のために我々はなにをすべきか？」	05/21-23 COAR(Confederation of Open Access Repository) 2014 Annual meeting への参加 (於：アテネ) 06/09-13 OR2014 (The 9th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：ヘルシンキ)
平成27 (2015)	08/04 第1回運営委員会 11/30 第2回運営委員会 03/24 第3回運営委員会	09/30 第1回 SPARC Japan セミナー2015 「学術情報のあり方 - 人社系の研究評価を中心に -」 10/21 第2回 SPARC Japan セミナー2015 「科学的研究プロセス と研究環境の新たなパラダイムに向けて - e-サイエンス, 研 究データ共有, そして研究データ基盤 -」 01/19 第3回 SPARC Japan セミナー2015 「研究者向けソーシヤ ルメディアサービスの可能性」 03/09 第4回 SPARC Japan セミナー2015 「研究振興の文脈にお ける大学図書館の機能」	04/15-16 COAR(Confederation of Open Access Repository) 2015 Annual meeting への参加 (於：ポルト) 05/18-20 ORCID-CASRAI Joint Outreach Conference & Codefest 及び ORCID Board Meeting への参加 (於：バルセロナ) 06/08-11 OR2015 (The 10th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：インディアナポリス) 11/03-06 ORCID Outreach Meeting & Codefest, November 2015 及び ORCID Board Meeting への参加(於：サンフランシスコ) 02/02-03 ORCID Board Meeting への参加 (於：ロンドン) 03/07-08 SPARC Meeting on Openness in Research & Education へ の参加 (於：サンアントニオ)

<p>平成 28 (2016)</p>	<p>09/06 第 1 回運営委員会</p>	<p>09/09 第 1 回 SPARC Japan セミナー2016 「オープンアクセスへの道」</p> <p>10/26 第 2 回 SPARC Japan セミナー2016 「研究データオープン化推進に向けて：インセンティブとデータマネジメント」</p> <p>02/14 第 3 回 SPARC Japan セミナー2016 「科学的知識創成の新たな標準基盤へ向けて：オープンサイエンス再考」</p>	<p>04/11-13 COAR (Confederation of Open Access Repository) Annual Meeting 2016 への参加 (於：ウィーン)</p> <p>05/18-19 ORCID Board Meeting への参加 (於：トロント)</p> <p>06/08-11 CRIS2016 (The 13th International Conference on Current Research Information Systems)への参加 (於：セントアントニオ)</p> <p>06/13-16 OR2016 (The 11th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：ダブリン)</p> <p>09/12-13 arXiv.org Member Advisory Board Meeting への参加 (於：イタカ)</p> <p>09/15-17 RDA (Research Data Alliance) 8th Plenary Meeting への参加 (於：デンバー)</p> <p>10/14-15 SCOAP<sup>3</sup> Executive Meeting への参加(於：ジュネーブ)</p> <p>11/09-10 PIDapalooza (PID: Persistent ID) への参加 (於：レイキャビック)</p> <p>12/07-09 SCOAP<sup>3</sup> に関する講演・意見交換会への協力 (於：NII、京都)</p> <p>01/17-19 IDF Strategic Meeting への参加 (於：バルセロナ)</p> <p>01/25-27 Open Access に係る海外機関の調査 (於：レーダンスブルク、ミュンヘン)</p> <p>03/20 SCOAP<sup>3</sup> Executive Meeting への参加(於：ジュネーブ)</p> <p>03/23-24 SCOAP<sup>3</sup> Governing Council Meeting への参加 (於：ジュネーブ)</p>
<p>平成 29 (2017)</p>	<p>09/26 第 1 回運営委員会</p>	<p>09/13 第 1 回 SPARC Japan セミナー2017 「図書館員と研究者の新たな関係：研究データの管理と流通から考える」</p> <p>10/30 第 2 回 SPARC Japan セミナー2017 「プレプリントとオープンアクセス」</p>	<p>04/05-07 RDA (Research Data Alliance) 9th Plenary Meeting への参加 (於：バルセロナ)</p> <p>05/08-10 COAR (Confederation of Open Access Repository) Annual meeting 2017 への参加 (於：ヴェニス)</p> <p>06/13-14 IDF Strategic Meeting International DOI Foundation への参加 (於：テジョン)</p> <p>06/15 DOI Outreach Meeting への参加 (於：ソウル)</p> <p>06/27-30 OR2017 (The 12th Annual International Conference on Open Repositories)への参加 (於：ブリスベン)</p> <p>09/18-21 RDA (Research Data Alliance) 10th Plenary Meeting への参加 (於：モントリオール)</p> <p>09/26 SCOAP<sup>3</sup> Governing Council Meeting への参加(テレビ会議)</p> <p>10/05 arXiv.org Member Advisory Board Meeting への参加 (於：ニューヨーク)</p> <p>12/07 SCOAP<sup>3</sup> FORUM (Webinar)</p>



	03/19 第2回運営委員会	02/21 第3回 SPARC Japan セミナー2017「オープンサイエンスを超えて」	01/23-24 PIDapalooza (PID : Persistent ID) への参加 (於：ジローナ) 01/25-26 IDJF Annual Meeting への参加 (於：バルセロナ)
--	----------------	---	--

## 5 刊行物一覧

### 5.1 国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 年報

〔日本語〕

- ・国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan) 年報 平成 28 (2016) 年度  
[http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/annual/pdf/sparc\\_annual\\_2016.pdf](http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/annual/pdf/sparc_annual_2016.pdf)

〔英語〕

- ・SPARC Japan (International Scholarly Communication Initiative) Annual Report FY2015  
[http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sparc\\_annual\\_2015-E.pdf](http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sparc_annual_2015-E.pdf)

### 5.2 SPARC Japan ニュースレター

〔日本語〕

- ・SPARC Japan NewsLetter 第 33 号 (2017 年 12 月)  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-33.pdf>
- ・SPARC Japan NewsLetter 第 34 号 (2018 年 3 月)  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-34.pdf>
- ・SPARC Japan NewsLetter 第 35 号 (2018 年 7 月)  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/newsletter/PDF/sj-NewsLetter-35.pdf>

〔英語〕

- ・SPARC Japan NewsLetter No. 32, Apr. 2017  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter32E.pdf>
- ・SPARC Japan NewsLetter No. 33, Dec. 2017  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/en/publications/pdf/sj-NewsLetter33E.pdf>

### 5.3 SPARC Japan セミナードキュメント

【第 1 回 SPARC Japan セミナー 2017】 (平成 29 年 9 月 13 日)

「図書館員と研究者の新たな関係：研究データの管理と流通から考える」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20170913.html>

- ・「開会挨拶/趣旨説明」 能勢 正仁 (京都大学大学院理学研究科)
- ・「研究者にとってのデータの意味と大学におけるデータ管理への期待」  
倉田 敬子 (慶應義塾大学文学部)
- ・「学術リポジトリは研究者と図書館員を繋げるのか？」  
大澤 剛士 (農業・食品産業技術総合研究機構農業環境変動研究センター)
- ・「研究データ管理の組織的支援と図書館の役割について」  
西菌 由依 (鹿児島大学/JPCOAR 研究データタスクフォース)
- ・「新たな学術情報流通において JPCOAR スキーマが果たす役割」  
片岡 朋子 (お茶の水女子大学/JPCOAR メタデータ普及タスクフォース)
- ・「研究データ利活用協議会(RDUF)紹介」

武田 英明 (国立情報学研究所/研究データ利活用協議会)

- ・「全体議論」

[モデレーター] 能勢 正仁 (京都大学大学院理学研究科)

**【第2回 SPARC Japan セミナー 2017】 (平成 29 年 10 月 30 日)**

「プレプリントとオープンアクセス」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20171030.html>

- ・「開会挨拶/趣旨説明」

坊農 秀雅 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター)

- ・「arXiv.org の次世代システムの公開と戦略」

引原 隆士 (京都大学図書館機構長/arXiv.org 会員コンソーシアム代表)

- ・「学術情報共有とオープンアクセスの未来」

Gregg Gordon (Managing Director, SSRN)

- ・「化学分野におけるプレプリントの位置付け・課題等について」

生長 幸之助 (東京大学大学院薬学系研究科/化学ポータルサイト Chem-Station 副代表)

- ・「生命科学分野におけるプレプリントの位置付けや経験について, 統合 TV について」

小野 浩雅 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター)

- ・「全体議論」

[モデレーター] 坊農 秀雅 (情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンター)

**【第3回 SPARC Japan セミナー 2017】 (平成 30 年 2 月 21 日)**

「オープンサイエンスを超えて」

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20180221.html>

- ・「趣旨説明」 蔵川 圭 (国立情報学研究所)

- ・「オープンサイエンスを真に理解する: その有益性の潜在能力, 脆弱性, 機能的パフォーマンスの問題, これらの解決策を講じない方法」

Paul A. David (Stanford University)

- ・「データ駆動型の科学研究エコシステムとしてのオープンサイエンスー過去のコミュニティ実践事例と日本の視点」

村山 泰啓 (情報通信研究機構/ICSU-World Data System)

- ・「オープンリサーチを可能にするには」

Heather Joseph (SPARC North America)

- ・「デジタル時代の研究プロセスと大学, 大学図書館における支援のあり方」

倉田 敬子 (慶應義塾大学文学部)

- ・「デジタル化時代の研究者のために図書館が構築すべき学術情報環境」

市古 みどり (慶應義塾大学三田メディアセンター)

・「全体議論」

モデレーターより：「討論への問題提起：オープンサイエンスの知識論を考える」

[モデレーター] 深貝 保則 (横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院)

国際学術情報流通基盤整備事業（SPARC Japan）年報  
—平成 29 (2017) 年度—

---

平成 31 年 3 月

発行 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構  
国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号

TEL 03-4212-2351

FAX 03-4212-2375

E-mail [sparc@nii.ac.jp](mailto:sparc@nii.ac.jp)

---

